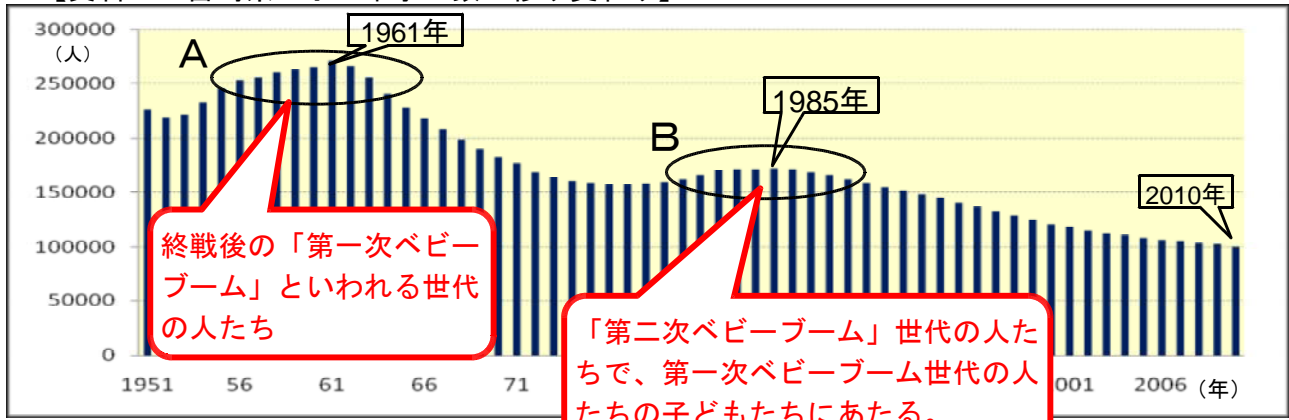


日本の人口と人口問題	( )組	氏
	( )番	名

博さんと康さんは、社会科の授業で現在の日本の人口問題について学習し、宮崎県の人口はどうなっているのか関心をもち、いろいろな資料を集めてみることにしました。

【資料1 宮崎県の小・中学生数の移り変わり】



博さんは、上の資料1を見つけた後、康さんと次の会話をしました。

博：1960年代と2000年代を比較すると、ずいぶん小・中学生の数が減ってきたことが分かるね。① 2010年の小・中学生の数は、Aの時期の半数以下になっているよ。

康：授業でも学習したように、宮崎県でも少子化が進んでいるということだろうね。

博：Aの部分の人数が多いのは、いわゆる「第1次ベビーブーム」ということなんだろうね。

康：そうだね。そしてBの部分が「第2次ベビーブーム」ということなんだろうけど、AとBには何か関係があるのかな。② Aのピークは1961年、Bのピークは1985年になっていて、24年間の間かくがあるけど…。

博：Bの人数が多いのは、③ではないのかな。

(1) 上の会話文中の(2)の空欄に入る適切な数字は100179人、1961年の人数は271706人であるか。次のア～エから最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

式)  $100179 \div 271706 \times 100 = 36.87\cdots$

- [ア 30%    イ 35%    ウ 37%    エ 40%]

記号	ウ
----	---

(2) Bの人数が多いのは、②と次の資料2をもとに、さい。

【資料2】

年	夫	妻
1970	27.6歳	24.6歳
1980	28.7歳	25.9歳
1990	29.7歳	26.9歳
2000	30.4歳	28.2歳
2010	32.1歳	29.8歳

Bの人数が多いのは、  
人口の多い(第一次ベビーブーム世代である)Aの人たちが結婚し、その人たちの子どもがBの世代にあたるから  
ではないのかな。

康さんは、これだけ少子化が進んでいるにもかかわらず「宮崎県は14歳以下の年少人口割合が全国5位(2010年)」という資料を見つけ、宮崎県と他の都道府県とを比較してみようと考え、日本で最も人口の多い東京都と宮崎県とを比較するために資料3のグラフを作成したところ、次の2つの疑問をもち、博さんと調べていくことにしました。

- 疑問1 なぜ、両都県とも、64～65歳の人口が極端に少ないのだろうか？
- 疑問2 なぜ、宮崎県では19歳になると人口の割合が減るのだろうか？  
(なぜ18歳を超えると、宮崎県と東京都の人口の割合が逆転しているのか?)

